



『エビデンスに基づくボツリヌス治療—上肢・下肢 痙縮に対するリハビリテーションの最適化のために』

安保 雅博【監修】 原 寛美, 高橋 忠志【編集】

B5・頁 256 2022 年 5 月 定価: 5,280 円 (本体 4,800 円 + 税 10%) [ISBN978-4-89590-751-4]
三輪書店刊

角田 亘 国際医療福祉大学

医療・医学のテキストを手にする（購入する）動機なるものは、以下の三つに分けられる。第一は、まったくの初学者が、その分野について一から（ゼロから）学ぶ場合である。第二は、ある程度その分野を経験した者が、さらなるブラッシュアップを決意した場合である。そして第三は、自称（もしくは他薦）でその分野のスペシャリストとなった者が、まだ残されていた弱点（スペシャリストでありながら、実は知らなかった知見）をこっそりと繕うためである。このたび上梓された本書は「ボツリヌス治療」についてであれば、一冊でこれら三つの動機に十分にお応えすることができる。最近流行りの言葉を使うのであれば、二刀流どころか「三刀流」の「ボツリヌス治療のテキスト」が世に登場したわけだ。

上下肢痙縮に対するボツリヌス治療が本邦で始まって以来すでに10年以上が経過し、着実にボツリヌス治療は全国津々浦々にまで広まってきている。つまりは、量（quantity）としては間違いなく発展してきた。そして現時点では、ボツリヌス治療の「さらなる質（quality）の向上」が課題となっている。このような時期に登場した本書が、本邦のボツリヌス治療の「質の向上」を一気に推し進めるものと私は期待する。ボツリヌス治療が新たなステージに進むためには、本書が必読のものとなるような予感がする。

リハビリテーション治療の多くがそうであるように、ボツリヌス治療もチーム医療として行われる。確かにボツリヌス毒素を実際に注射投与するのは医師に他ならないが、その前後を理学療法士や作業療法士などのリハビリテーション科療法士が固めることで、ボツリヌス治療の効果は最大限にまで高められる。このようなチーム医療のコンセプトを十分に理解して企画されたと思われる本書の執筆陣は、「ボツリヌス治療に長らく携わってきた多職種の先生方」から構成されている。「ボツリヌス治療の経験豊富な医師でしかかわからないこと」を医師のみならず療法士も学び、「ボツリヌス治療の経験豊富な療法士でしかかわからないこと」を療法士のみならず医師も学ぶ。本書を通じてそれが実現することを私は切望する。

以前にも増して多くの医療・医学のテキストが出版される昨今、いずれのテキストを手取るべきか（購入すべきか）との悩みが尽きない。しかしながら、最新の情報を広く網羅した本書を「ボツリヌス治療の座右の書」として手元においておけば、他の細かな文献やテキストの必要性が低くなる。「大（本書）は小を兼ねる」のだ。本書をひととおり読み終えた私は、今まで置きためていたボツリヌス治療に関する文献やテキストのいくつかをゴミ箱に捨てた。本書によって、ボツリヌス治療に関する私の知識が劇的に整理され、同時に書類や書籍が散乱していた私の部屋（特に机回り）も少々整理されたことになる。そのようなわけで、本書を著された先生方にあらためて御礼を申し上げる。